

谷本公園 (仮称) ビオトープ再生活動 ~ビオトープ通信~

vol. 1 【

ビオトープ通信のお知らせ&現状の問題点

】

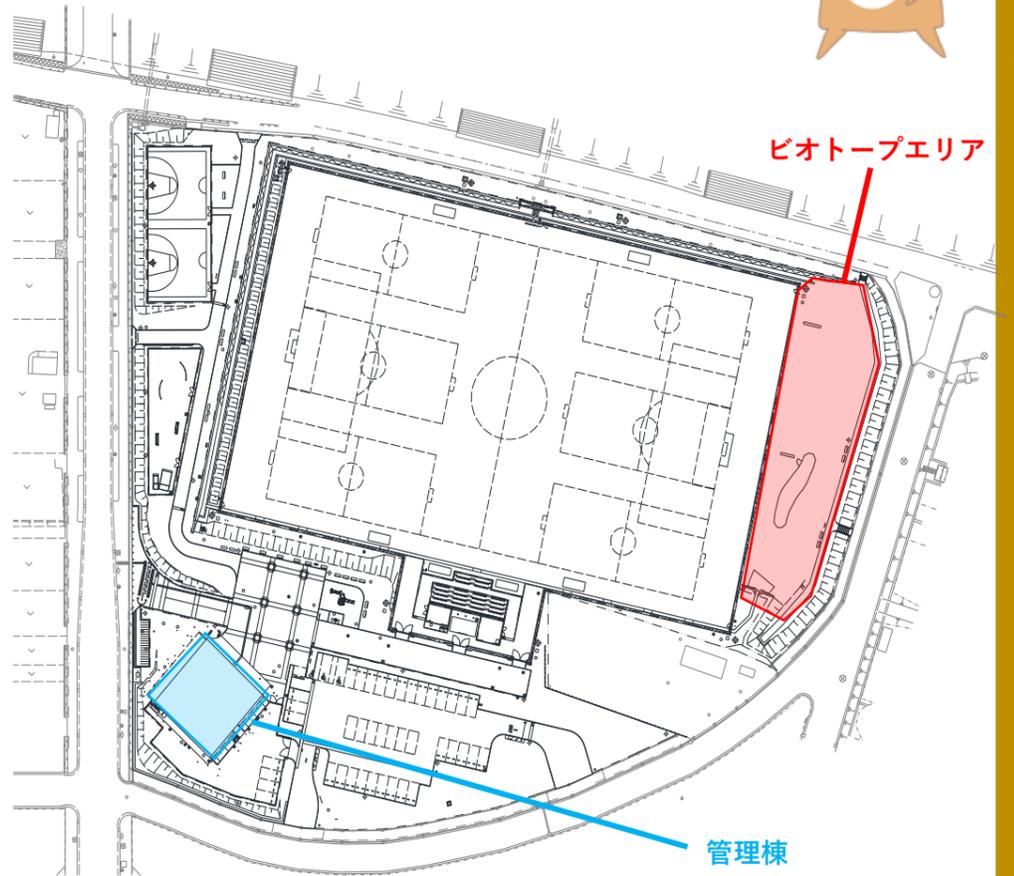


こんにちは、平成31年4月1日から谷本公園の管理を行っている、横浜市指定管理者「**緑とコミュニティーグループ**」です。

谷本公園のビオトープは、公園の南側の約1300㎡のエリアに園内の雨水排水が集まり湿地帯となる、湿性のビオトープとして整備されました。

現在このビオトープは、湿地帯が干上がってしまい湿地ではなくになってしまう時期があり、ビオトープとしての生物多様性を発揮できていない状況です。

これまでの1年間で、調査や出来る取り組みを管理作業の中で行ってまいりました。今後、より良い取り組みを行うために「地域の皆さんと一緒にやっていきたい」「その取り組みについて知っていただき、公園や公園のビオトープに愛着を持って接してもらいたい」というコンセプトのもと、「**ビオトープ通信**」の刊行及び「**一緒に活動してくれる人(公園モニター)**」の募集を行い、この活動をもっと良いものにしていこうと考えています。参加を希望される方は、管理事務所までお問い合わせください。



初回である今回は、これまで管理を行ってきた経験から今後の活動を計画するにあたって、「現状の湿地エリアとしての問題点」と「生物の多様性の観点からの問題点」を考えた結果についてまとめて報告をします。

【現状の湿地エリアとしての問題点】

①水量不足

雨水の流入に水源を頼っている為、降雨の少ない時期には水の供給がなくなってしまう。

②保水能力が低い(防水性能)

湿地全体は荒木田土(田んぼ等の底にある水を通しにくい粘土)による防水が公園設立時(約16年前)には施されているが、①の要因から乾燥してカラカラになってしまうことがある。乾燥してしまうと荒木田土にはたくさんのヒビが入るため水の通り道ができ、防水効果が得られなくなる。

※「荒木田土より下層(水が抜けていく先)の水分が飽和状態である」=「公園全体の地下水の水位が多い時」には水位上昇は見られますが、荒木田土の層自体に保水力があって水位が上昇してるわけではないと我々は見えています。

③植物の繁茂

水深が浅く保水能力が少ないのに対して、植物の繁茂が多く、植物によって水分が消費されてしまう。

特に、繁殖力が旺盛で、自身が枯死した際に水質悪化や陸地化を促進してしまう「葦(ヨシ)」が大量に発生している。

【現状の生物多様性としての問題点】

①多様性に適さない植物

スギナやヨシが繁茂している。スギナは根が深く繁殖力が旺盛なので、他の植物の繁殖を妨げてしまう傾向にある。ヨシについては鳥などの隠れ家としての効果は期待できるが、繁殖力が旺盛で水質悪化や陸地化を促進しやすいことなどを考えると、それほど大きくないこのビオトープエリアではあまり好ましくない植物である。

②水性生物の多様性

完全に鰓(エラ)呼吸に依存している生物(ヤゴなど)は、生息できたとしても水が枯れると最終的に死んでしまう。完全に水の枯れてしまう環境では水性生物の多様性を確保できない。

③外来生物の侵入

セイタカアワダチソウなどの特定外来生物が確認されているほか、過去にはアメリカザリガニの水場への侵入も見られた。これらの生物は他の在来の生物の成長を阻害したり、食べてしまう。



スギナ

春の風物詩でもある「ツクシ」の夏の姿。

以上のような問題点があると考えています。この問題点をどのように解決し、湿地としての性能を回復した生物の多様性にあふれるビオトープを再生し、利用者の皆様の憩いの場になるようにしていけるように活動していこうと思います。まずは、現地の図面的な調査を行って現状をより知ろうと思います。皆様の積極的な参加や御意見を今後よろしくお願いたします。